

ALSOプロバイダーコース

～愛仁会看護助産専門学校～

平成 30 年 1 月 13 日・14 日開催

Advanced Life Support in Obstetrics(ALSO)とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を身につけ、伸ばすための教育コースです。また産婦人科医のみならずプライマリケア医が分娩を扱えるようになることを意図した訓練でもあります。1991年に ACLS と ATLS を参考にして、ウィスコンシン州の一般診療医師二人が ALSO を考案しました。1993年にコース権利は American Academy of Family Physicians (AAFP-米国家家庭医学会)によって認可され、現在全米ではほとんどの分娩施設において、分娩に関わる医療プロバイダーが ALSO を受講することを義務づけられています。また米国の家庭医レジデンシープログラムのうち、78%が ALSO をプログラムに導入しています。さらに ALSO コースは世界的に普及活動が行われており、2009年現在までに 50 カ国以上でプロバイダーコースが開催され、10 万人以上が ALSO コースを完了しました。

コースの教材は、シラバス(教科書)、レクチャー、実地訓練のためのマネキンを使用したワークショップです。筆記試験とマネキンによる実技試験(メガデリバリー)がコースの終わりにあります。ALSO は分娩室における産科の救急的対処を強調していますが、その他に出産前のリスク評価、妊娠初期の性器出血、患者-医師関係、出産危機における両親のサポート、そして医療過誤リスクの減少といったテーマも含まれています。

プロバイダーコースは二日間にわたって行われます。妊娠初期の合併症、難産、妊娠の内科的合併症、妊娠後期の性器出血、分娩後大出血、早産、前期破水、妊婦の蘇生法、そしてマタニティケアにおける安全性の 8 つのレクチャーがあります。少人数グループによるワークショップは、肩甲難産、胎位・胎向異常、鉗子と吸引、分娩中の胎児監視、症例検討の 5 つです。オプション・ワークショップとして会陰縫合、帝王切開、超音波検査、出産危機における両親への対処、そして新生児蘇生の 5 つから適宜行われます。

プロバイダーコースを受講し試験に合格した場合は、参加者は 5 年間有効の認証を受けることができます。プロバイダーコースのインストラクターになることを希望する場合、さらに一日間のインストラクターコースを受講しなければなりません。

日本では 2008 年 11 月に金沢で日本初のプロバイダーコースが開催されて以来、多くの方が ALSO コースを終了しました。参加者は産婦人科医、プライマリケア医、研修医、救急医、助産師、そして医学部生などであり、これまで現在あるいは近い将来の日本の周産期医療体制において、分娩や産科救急に関わる可能性のあるすべての医療人が参加しています。日本全国のすべての地域で、できるかぎり同じレベルの産科医療を維持するために、産科医療に関わりたいという志を持った人たちをトレーニングする場は数多く必要になるでしょう。その足がかりとなるトレーニングコースが ALSO であり、今後日本で普及していくことを願ってやみませんし、またそうなるって行くことでしょう。

ALSO—Japan

セミナー：ALSO プロバイダーコース

主催：愛仁会看護助産専門学校

共催：NPO 法人周産期医療支援機構（OPPIC）

開催場所：〒569-1115 大阪府高槻市古曾部町 1 丁目 3-33

電話：072-681-6031 （担当者：助産学科 増本 綾子（ますもと あやこ））

日時：平成 30 年 1 月 13 日（土）、1 月 14 日（日）

なお、申し訳ありませんが、定員に達したため応募はすでに終了いたしました。